

第1回東部まちづくり戦略会議 議事録

- 1 開催日時
令和元年 11 月 28 日（金）14 時 00 分から 16 時 00 分まで
- 2 開催場所
小牧市役所 本庁舎 6 階 601 会議室
- 3 出席委員（名簿順）
山下史守朗 小牧市長
増田 昇 大阪府立大学名誉教授
古池 嘉和 名古屋学院大学教授
大塚 俊幸 中部大学教授
和田 貴充 空き家活用株式会社代表取締役 CEO
坪井 和巳 小牧商工会議所専務理事
尾関 雅俊 こまき新産業振興センターセンター長
小柳 松夫 区長会篠岡地区会長

ファシリテーター 秦野 利基
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局
伊木 利彦 副市長
前田 勝利 都市政策部長
鵜飼 達市 都市政策部次長
平野 淳也 都市政策部東部まちづくり推進室長
横井 久志 都市政策部東部まちづくり推進室 係長
林 亮佑 都市政策部東部まちづくり推進室 主事
長谷川 優 都市政策部東部まちづくり推進室 主事
- 6 傍聴人数 14 名
- 7 会議内容
 - 1 開会
あいさつ
 - 2 議題
(1) 会議の公開について
(2) 東部まちづくり戦略会議について
(3) 東部地域の現況と課題について
(4) その他
 - 3 閉会

■議事録

【事務局】

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本会議の進行役を務めさせていただきます、都市政策部次長の鶴飼でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、ただいまより第1回東部まちづくり戦略会議を開催させていただきます。

本日の日程につきましては、お手元の会議次第のとおりであります。それでは初めに、山下市長からごあいさつをさせていただきます。

【山下市長】

東部まちづくり戦略会議ということで今回立ち上げさせていただきました。

まずもって、委員の皆さまには、戦略会議の開催にあたりまして、委員の就任についてお願いを申し上げましたところ、ご快諾をいただきましたことを御礼申し上げたいと思います。また、ファシリテーターの秦野さんにも大変お世話になります。どうぞよろしくお願い致します。

さて、全国的に人口減少社会、超高齢社会ということが言われておりまして、本市におきましても例外ではありません。15万人余りで人口がここ数年、横ばいでありましたが、平成27年をピークといたしまして、いよいよ我市も減少局面に差し掛かってきていると思っております。

そうした中でも、特に名鉄小牧線沿線の地域については、人口増加の傾向はありますが、特に今日ご議論いただきます東部地域は、人口減少が著しく、今後もそうした傾向が顕著になっていくことが予測される地域でございます。

特にその中でも、昭和の終わりから平成のはじめにかけて、入居が始まりました桃花台ニュータウンは、約40年が経過をしているところでございます。

桃花台ニュータウンについては、ニュータウンの宿命と申しますか、一時期に、その当時、結婚され子育てが始まった年代の方々が、多く入居され、一時は子どもが非常に増えるのですが、年を重ねるごとに、子供も大きくなり、そして、大学や就職などで外へ出ていかれる。そうした中で、当時は若かった方が、同じように年を重ねてこられて高齢化が一気に進むという、これは桃花台のみならず、多くの全国のニュータウンでも同様の傾向ではないかと思われまます。

こうした、桃花台ニュータウンの今後の人口減少や高齢化への対応を考えていくことが大きな課題であると認識しております。

そうした背景の中で、特にこの戦略会議におきましては、東部地域のまちづくりについて、桃花台ニュータウンを含む東部篠岡の地域における、まちの将来像及びその実現のための取り組みを明らかにしていく東部振興構想、これは仮称ではありますが、そうしたものを策定して参りたいと考えております。そのために、必要な議論をこの戦略会議で行わせていただければと考えております。

本日お願いいたしました委員の皆さまには、それぞれの立場や専門的なご知見、ご経験の中からは是非とも忌憚のないご意見をいただきまして、東部のこれからのまちづくりに役立つご示唆をいただければ大変ありがたいと思っております。

この戦略会議というものは、市政の重要な課題について、戦略本部を設け、市政戦略本部の中で、これまでに企業立地であるとか、自治体経営改革であるとか、高齢者の福祉医療等に関する分野について、外部の有識者を交えた戦略会議を開催しながら、これまで市政の方針を作ってまいりました。

戦略本部の本部長を私が務めておりますが、戦略本部の中に、この東部まちづくりの戦略会議を位置づけて、委員の皆さまにご議論いただき、一定の成果とか、作り上げるというところまで、まだ見据えておりませんが、忌憚ないご意見をいただきながら、理解を深めていきたいと考えており、そのような趣旨で開催する会議体で、何もシナリオがありませんので、どこにどのように行き着くのかは皆さま方とともに作り上げていく、そうした会議体であります。

最初の会議、第1回であります。2時間弱になりましたが、限られた時間ではありますが、有意義な会議にさせていただきたいと考えております。どうかよろしく願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

まず第1回目でありますので、委員のご紹介をさせていただきます。お手元の資料1 委員名簿をご覧ください。委員のお名前をお呼びいたしますので、呼ばれましたらご起立いただきまして、一言いただきたいと思っております。

大阪府立大学 名誉教授 増田 昇 様

【増田委員】

増田でございます。よろしく願いいたします。

都市計画の中でも主には「公園緑地をベースにした緑地計画学」が専門でございます。

よろしく願いたいと思っております。

【事務局】

ありがとうございました。

次に、名古屋学院大学 教授 古池 嘉和 様

【古池委員】

古池と申します。よろしく願いいたします。

地場産業とコミュニティーの専門家と書いていただいておりますが、大きく括ると「文化経済学」という分野を専攻しております。よろしく願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

続きまして、中部大学 教授 大塚 俊幸 様

【大塚委員】

中部大学の大塚でございます。

私は、都市地理学を専攻しておりますけれども、特に「都市の成長・衰退」に関することをテーマに研究しております。どうぞよろしく願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

次に、空き家活用株式会社 和田 貴充 様

【和田委員】

和田でございます。よろしくお願いいたします。

民間のベンチャー企業の会社であり、空き家問題を解決したいということで、東京の方で本社を構えて活動しております。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

続きまして、小牧商工会議所 坪井 和巳 様

【坪井委員】

坪井でございます。よろしくお願いいたします。

商工会議所はこの11月からでございますが、その前は小牧の企業で30数年総務・管理畑で仕事をやってきました。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

次に、こまき新産業振興センター 尾関 雅俊 様

【尾関委員】

尾関でございます。よろしくお願いいたします。

4月にできました、こまき新産業振興センターという中小企業の支援拠点で、小牧市内の企業の成長産業への参入、新規事業展開、デジタル技術の活用における展開に対するご支援をしています。そのような視点から産業展開について意見ができればと考えております。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

続きまして、地元住民の代表 小柳 松夫 様

【小柳委員】

ご紹介いただきましたように、地元の住民代表ということでこの席に座らせていただいております。今年度に入って、東部まちづくり推進室という部署が創設され、私どもとしては、大変期待をしております。なんとか、持続可能な地域にしたいという思いがあります。

私自身は、桃花台ニュータウンができたはじめての年である、昭和55年12月24日に入居させていただきました。それから40年が経過し、年齢も80を超えてしまいました。高齢化はまさに私のことではないかということで、複雑な思いではありますが、このような場で、各委員の意見を聞いたうえで、行政に任せるだけではなく、地元は何をすべきかを深く考えていかななくてはならないと思っています。色々ご指導いただきますようよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

最後になります。本会議のファシリテーターといたしまして、秦野 利基 様にお願いしております。

【秦野ファシリテーター】

秦野でございます。私は何者というのはこの資料に記載がありませんが、特定非営利活動法人のこまき市民活動ネットワークというところの代表理事をやっています。

商工会議所でも産業振興委員会の委員長をさせていただいております。一企業の経営者でもあります。市民活動ネットワークの方では、市民活動の支援、行政との協働推進が大きな仕事ですが、これまでも小牧市での協働における色々な整備を行ってきました。中間支援を行ってきましたので、今回この戦略会議におけるファシリテーターという役割を与えられたと思っております。

普段は意見を言う側ですが、今回の会議では意見は言わずに、皆さんの意見を引き出したいと思っております。4回の会議となっておりますが、よろしくお願いします。

【事務局】

それでは、議題に移ります。以後の進行につきましては、ファシリテーターである秦野利基様にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

【秦野ファシリテーター】

それでは、議題（1）会議の公開について、事務局より説明をお願いします。

議題（1）会議の公開について

【事務局】

それでは、議題の（1）会議公開について説明をさせていただきます。

参考資料1をご覧ください。

本議題は、「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」により公開又は非公開の決定を諮っていただくものでございます。

第1条の趣旨であります。情報公開の一環として、会議を公開することは、審議会等の運営の透明性、公正性を確保するとともに、市政に対する市民の理解と信頼を深める事に寄与するものであります。

指針の第3条をご覧ください。

ここでは、審議会等の会議は原則、公開としますが、会議を公開することにより著しい支障が生じると認められる場合は非公開とすることができる旨を規定しております。

本会議については、会議を公開することにより著しい支障が生じることはないと考えており、事務局としては原則、公開に基づき、公開することとしたいと考えております。

慎重なご審議をお願いいたします。

【秦野ファシリテーター】

ただいま、「会議公開について」を事務局より説明がありました。皆さんいかがでしょうか。

【全委員】

異議なし。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。それでは、本会議は、公開とします。

次に移りまして、(2) 東部まちづくり戦略会議についてを議題といたします。事務局より説明をお願いします。

議題(2) 東部まちづくり戦略会議について

【事務局】

お手元の資料3 東部まちづくり戦略会議についてをご覧ください。

1 東部まちづくり戦略会議設置の目的であります。市長のあいさつでもありましたとおり、東部地域のまちづくりについて、まちの将来像及びその実現のための取組を明確にする東部振興構想の策定方針を定めるために必要な議論を行うことでもあります。

2 東部まちづくり戦略会議の位置づけであります。市長あいさつにもございましたが、市が抱える課題のうち、特に重要なテーマに対して、市長・副市長・関係職員で構成する市政戦略本部会議において、専門的な知識又は経験を有する者と議論するため戦略会議を置くことができるとされており、本戦略会議はそれに位置しております。

したがって、東部地域の再生については、本市の重要課題のひとつとなりますので、委員の皆さまには、ご協力をお願いします。

3 東部まちづくりの進め方(案)ということで、今後の流れについてまとめております。Ⅰ. 東部振興構想・基本計画策定方針の策定ということで、本会議の東部まちづくり戦略会議で4回程度の議論を行ったのち、庁内組織の意思決定機関である市政戦略本部会議にて東部振興構想・基本計画策定方針を決定いたします。

その後Ⅱ. 東部振興構想・基本計画の策定として、桃花台NT部会を含む東部振興構想・基本計画策定委員会を設置し、パブリックコメントなど幅広く意見を聞いたうえで、構想・基本計画を策定します。

Ⅲといたしまして、策定後の推進方策を記載しております。

東部まちづくり協議会を設置したうえで、PDCAサイクルによる推進を図っていくこととしたいと考えております。

なお、構想の10年、基本計画の5年、さらには各取組を1年ごとに点検・評価し、問題・課題を改革・改善しなら進めていきたいと考えております。

簡単ではありますが、以上で説明とさせていただきます。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。ただいま事務局より説明がありましたが、ご意見等ございますか。

【山下市長】

事務局より会議の位置づけや進め方の案を示させていただきましたが、先ほど挨拶でも申

上げましたとおり、この会議で何かを決定する会議ではないということでもあります。委員の皆さまの豊富なご経験やご知見を頂戴し、議論を深めていきながら、どのように進めていくかについても議論を深めていくことで出てくる部分もあるかと思えます。必ずしもこの後のスケジュールを固めることまで、今決めるべきではないかと思っています。またどの方向に進めていくのか、市長の私自身も委員の皆さまのご意見をお聞きしながら考えていきたいと思っております。今現在開催回数を4回程度みておりますが、内容によっては4回では議論が終わらない可能性もあるかと考えております。

まずはイメージを事務局より案として示させていただきました。私より補足ということで発言させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございました。それでは委員の皆さまよろしいでしょうか。今のご理解で進めさせていただきたいと思えます。

また進め方についても皆さまのご意見を伺いながら検討させていただきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

次に移りまして、(3) 東部地域の現況と課題についてを議題といたします。事務局より説明をお願いします。

議題(3) 東部地域の現況と課題について

【事務局】

「東部地域の現況と課題について」ご説明させていただきます。

資料4「東部地域の現況と課題について」及び参考資料3「基礎データ集」をご覧ください。事務局にて参考資料3「基礎データ集」を作成し、それに基づき、現況と課題を資料4「現況と課題について」でまとめております。参考資料3についての詳細な説明は議論の時間を多くとりたいこと、また資料を事前送付させていただきましたことから割愛させていただきます。

まず現況についてであります。人口関係の現況を①平成16年をピークに開始した人口減少、②継続的な若年層の転出超過、③市内他地域と比べ、急速な高齢化の進展、④急速な児童・生徒数の減少の4つに整理させていただきました。参考資料3では主に7ページから28ページにてデータを掲載しております。この人口の現況については、残りの現況⑤～⑩についても密接に関連していることから、この現況を前提としております。この4つの現況から人口関連の課題といたしましては、ピンクで囲んである課題の枠のうち、①人口減少の進展、②高齢化の進展、③減少した児童・生徒数の3つを主な課題として設定しました。

次に土地利用や建物・交通などの現況については、⑤用途地域や地区計画による商業施設などの立地規制、⑥桃花台ニュータウンに立地する大量な集合住宅及び集合住宅居住者の減少、⑦空き家の増加見込み、⑧都市計画マスタープランにおける産業候補ゾーンを有するなど企業誘致に有利な立地条件の4つに整理しております。こちらの根拠といたしましては、参考資料3の2ページから4ページ及び29ページから45ページで掲載しております。この4つの現況から土地利用等の主な課題としまして、④集合住宅及び空き家の利活用と⑤地域活力の向上を主な課題といたしました。

次に地域資源として、⑨四季の森や温水プールなどの観光資源及び桃などの特産品の存在を挙げています。こちらは参考資料3の5ページ・6ページで掲載しております。課題としましては、先ほど土地利用等での課題と重複しますが、⑤地域活力の向上として整理しております。最後に地域住民の特性・ニーズ等について、⑩まちづくりに関する意識が高い住民が多いと整理しております。こちらは参考資料3では46ページから58ページで掲載しております。課題としましては、⑥地域住民等との協働連携といたしました。

なお、資料5につきましては、整理した課題①から⑥に対して、現在実施している事業を記載しております。参考までにご覧ください。説明は以上となります。見識ある委員の皆さまから、この現況と課題の視点としてご意見を賜りたいと考えております。よろしくお願いいたします。

【秦野ファシリテーター】

今から15時50分ごろまで、1時間ちょっと時間をいただきましたので、皆さんに色々な知見に基づいてお話しいただければと思っております。

現況と課題ということで、この中に唯一桃花台にお住まいの小柳委員がおられますので、まず皮切りに一言お願いできればと思います。

【小柳委員】

現状と課題というところですが、随分しっかり資料としてはまとめられております。

ただ、もっと深く掘り下げますと、実は私の桃ヶ丘地区・古雅地区は昭和55年から56年に集中的に入居したところございまして、高齢者率も非常に高い。

例えば私の区でいいますと、365軒の住民ですけれども、65歳の高齢者比率は52%を超している状態です。私が町内会をやる立場にいまして、実際に中で活動していますが、昔は集まる人は女性ばかりでしたので、ズボンをはいていくのが恥ずかしいよね、スカートをはいてこないかんと冗談を言う時代でした。

しかし、今日どうなっているかというと、実は私のところは25ブロックに分けてありまして25人の評議員がいるのですけれども、その中で9名がひとり身です。そのうち7名が御主人を亡くした御婦人であります。比較的元気で頑張っておられるので、今のところ何とか区の組織はまとめ上げております。男性も2人おりますけれども、これは生涯独身という方があります。

そういう状況の中で考えますと、この資料だけで見るとまだまだ先があるように思うけれども、私どもの町内の実態を見ると、とてもじゃないが、5年先を想像するとぞっとするぐらいの気持ちで町内活動をいたしております。高齢化していくのはやむを得ないですけれども、元気にいつまで頑張ってくれるかというのが、現状のところなんです。

市長が公約されました小学校単位の地域協議会があります。東部で桃ヶ丘が最後に設立したところです。しかし、似たような事業をやっておりましたので、立ち上げは2カ月で皆さんに理解いただきました。そういうことで、現在様々な活動をしています。今日も午前中、消防署で打ち合わせをしてきたのですが、来週早々防災訓練をやります。防災訓練は小学校でやるのですけれども、小学校へ集まれよということでなくて、それぞれの地域で防災器具倉庫がありますので、そこを中心に集合して、それからその責任者がまとめて小学校へ移るといふ、様々な努力を町内でしています。

しかし、一番大事なのは、お互いに自分ができそうな一歩先をみんなで考ようじゃないかということ地域協議会の中の基本的な問題として捉えていって、皆さんに理解してもらっていきたい。向こう三軒両隣という昔の言葉がありますけれども、向こう三軒だけじゃなくて、気がつく人はどんどん手を差し伸べたい、あるいは差し伸べてもらえるような。色々な人がいるのですけれども、そういうものをスムーズにできるような地域づくりが必要になってきているということで努力させていただいていますが、いかんせん少子高齢化は私どもの手では止めることができない。こういうところで、これから色々持続可能にするにはどうしたらいいかということをお皆さんの色々な立場から御指導いただきたいと思っております。

ありがとうございます。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

増田委員、お願いいたします。

【増田委員】

根本的な話で、東部地域の将来像を議論するのか、桃花台ニュータウンの再生というのに絞って議論するのか。

タイトルを見ていると、東部地域のまちづくりに対してということで招集いただき、参加させていただいていますけれども、ここに書かれている現況、あるいは、課題は桃花台ニュータウンに限ってのことで、東部地域全体の課題とか現況が認識されていないのではないかと。

例えば桃花台ニュータウンを含む東部地域というのは、ここで農家数がどれぐらいあって、農業出荷額がどうなっていて、既存エリアの中での産業構造は一体どうなっているのか。

泉北ニュータウンが資料について、私はそこの再生を10年以上ずっと、座長でお手伝いしており、また、日本のニュータウンの一番最初の、先がけの千里ニュータウンの再生もお手伝いしたのですが、千里ニュータウンと泉北ニュータウンの根本的状況の違いは、千里ニュータウンは全て市街化区域の中に含まれたニュータウン、それに対して泉北ニュータウンは農村部を持って、そことずっと乖離して来た。農村集落とニュータウンをどう一体化するのかという課題を持ち続けたまま、回答を出せないニュータウンである。

ここに書いてある現状と課題は、どう見ても東部地域全体の課題ではなくて、桃花台ニュータウンの課題しか書かれていないのではないかと。今後の東部地域全体の再生ということを考えると、当然農村部とニュータウンとの連携をどう考えていくのか。あるいはこの東の端の地区計画のあたりで産業立地とか大学の誘致みたいなことをしているエリアが少しございます。そのあたりのことがほとんど触れられていない。これからの東部地域全体の活性化を考えていくと、そこを抜きに議論できないのではないかと。

手を挙げて御質問させていただいたのは、どういうスタンスで我々は議論したらいいのか、決めておく必要があると思っております。

【秦野ファシリテーター】

よろしいですか、市長。

現況の中のおそらく8番9番というのが桃花台ニュータウンを取り巻く当市の特徴的なところ

だと思いますけれども、今回、桃花台ニュータウンとその周り、旧地区というか自然の多い環境の中で工業団地またはそういったもの、他にも観光資源等も踏まえた中での東部の計画だと理解しておりますけれども、そのあたり、市長、御意見いただけますか。

【山下市長】

御質問がございましたので、私から回答させていただきたいと思います。

御質問の趣旨の1つの答えというのが、今回の東部まちづくり戦略会議のテーマは、桃花台ニュータウンを含む東部地域全体のこれからのまちづくりを考えていく、そういうテーマであるということをもまず確認させていただきたいと思います。

増田委員から全国的にニュータウンの色々なタイプがあるというお話がありましたが、そういう意味では、東部地域全体といったときには、従来からある篠岡地域、旧篠岡村でありますけれども、参考資料3の2ページの都市計画図にありますように、この地域のちょうど中心部に桃花台ニュータウンが愛知県によって造成されて、整備されたまちとして、かなり人口集積もあって、都市基盤整備は基本的には完成された形できれいになった団地が出現して40年たつ状況であります。

特にニュータウンにおいては、急速に高齢化と人口減少が進んでいく。このニュータウンの議論も当然我々には大きな課題であって、ニュータウンの今後について持続可能でこれからも今の住民の皆さん方が住みやすく快適に暮らしていただきながら、次の世代まで引き継いでいけるようなニュータウンにすることができないだろうか、持続させていくことはできないだろうか。そういう意識が1つあります。

ただ、今回、我々小牧市といたしましては、そうしたニュータウンの状況はありますけれども、ニュータウンだけが課題かというところではなく、東部地域とは、桃花台ニュータウンを中心に周りに田園あるいは山際を含んでおり、ここについてもやはり今後の高齢化の中での課題や空き家の問題などについては、共通の課題があると認識しています。

全体図は2ページにございまして、東部地区が右側約半分でございます。色のついたところが市街化区域、桃花台ニュータウンが描いてございまして、桃花台地区計画と書いてあり、右側にいきますと市民四季の森という、小牧市が誇る公園がございまして、市外からも多くの方が来られる公園がございまして、小牧には線路は1本しか走っておりませんが、2つインターチェンジがございまして、西側の小牧インターチェンジとは別に、東部の小牧東インターチェンジというものが中央自動車道でございまして、

東部地区には色々な資源があるという話でありましたけれども、市民四季の森という都市公園を初め、温水プールとか兒の森などがありますし、あるいは本市唯一の酒蔵でありますワイナリーもあります。幾つか、いわゆる人が集まる施設があるという状況です。

「東部地区計画」と書いてあるあたりは、研究開発企業など産業誘致とか、あるいはその下の2大学誘致をしていたということがありまして、そのようなゾーンもあります。大学については、2校あり、そのうち1大学は既に外に、名古屋の都心に転出していくことが決まっている状況でございます。

こういった状況がありまして、もうちょっとわかりやすく言うと、26ページを見ていただきますと人口密度がございまして、桃花台ニュータウンはまだ人口密度が高い、その周りの人口密度が低いといった状況であります。そして、数ページおめくりいただいて36ページでございまして、小中学校の分布がございまして、先ほど小柳委員からお話がありましたが、小学校区単

位での地域協議会設立を推進しています。市内に 16 小学校と、9 中学校がございます。そうした中で市がこれまで主として、連携させていただきたいいわゆる自治会、小牧市では区と呼んでおりますが、この区が 15 万 3,000 市民の都市の中で 129 の区に分かれております。小さな、数世帯という区もあれば、1,500 世帯を超える大きな区もあります。こういう状況の中で今後を見据えると、やはり住民自主の観点、あるいは協働の観点で、支えあい活動や防災、防犯、あるいは子供の見守りや高齢者の支え合いといったようなことを考えていくと、もうちょっと中間のまとまりが必要ではないかという考えの中で、地域の問題解決のための地域協議会というのを提案しております。それが 16 小学校のうち 10 の小学校において、ここ数年で立ち上がってきている状況でございます。

36 ページの上段が小学校の分布ですが、桃花台、篠岡の地域には 5 つの小学校がございます、先ほど増田委員がおっしゃいましたように、桃花台と桃花台ニュータウン以外の周辺の篠岡の地域と小中学校というのは合わせて子供たちが通っております。桃花台としてのまとまりということも非常に重要であって、そこで桃花台としての、桃花台まつりを初め住民の色々な活動が行われているわけですが、ニュータウンとそれ以外の篠岡地域との連携協力ということも必要だということで、地域協議会は小学校区単位で設立しております。市としても、ニュータウンの区域をまたいで今後活動していこうという状況になるところでございます。

私あまり長く話してはいけません。もうこれで終わりますけれども、資料 4 の現況と課題のところ増田委員から御指摘がございましたけれども、東部地域の現況と課題という資料 4 のペーパーにつきましては、不十分かもわかりませんが、事務局としては桃花台を含む篠岡全域を見たときに、特に課題だということについて現況を整理したものになっております。先ほどファシリテーターからもご意見がありました現況の 8 番 9 番あたりは、桃花台ニュータウンの中のことでなくて、産業候補ゾーンの関係とか市民四季の森や温水プールや、桃あるいはブドウといった特産品については桃花台ニュータウン以外のところの主な現況ではないかと考えております。

【秦野ファシリテーター】

増田委員、お願いします。

【増田委員】

私ばかりしゃべっていると悪いですが。

非常によくわかるのですけれども、基本的には、要するにニュータウンの根本的問題というのは、ベッドタウンをつくってきたということが根本的問題で、純住宅でしか展開できなかったというのは大きな海外のニュータウンと違うところです。海外は、基本的には産業と一体となったニュータウンづくりをしてきましたけれども、日本は千里ニュータウンに始まって純住宅をつくってきた。新住宅市街地開発法という、住宅について整備してきて、産業が入れるようになったのはかなり後に一体開発が入れるようになったということで、ここの桃花台ニュータウンは純住宅です。

純住宅である限り、純住宅として展開していこうと思うと、課題解決の道のりの選択肢はあまりない。例えば若い人が入ってくる、あるいはそこで 3 世代居住するということは、そこに家業があるとか、そこで働く場所が提供されているとかということがない限り、持続性というところは確保できないわけです。そういうことを考えると、要するにニュータウンの中の純住宅地の課題に絞って議論をしていたら解決策が見つからないということです。

土地利用もそうです。ここに書いてある 6 番の土地利用において、用途地域や地区計画による商

業施設などの立地規制と書いていますけれども、もっと大きな問題は、土地利用は全て埋め尽くされていて、要するに新たな土地利用展開をする用地がないということがニュータウンの非常に大きな課題。泳ぎしろがゼロだということですよ。その泳ぎしろを何らかの形で探していこうと思うと、ニュータウンの外部との連携、あるいは東部地域全体との連携を考えていかないと、要するに出口が見つからない。

例えば 30 ページを見ていただいたらよくわかると思うのですが、新築状況を見ていただくと、ニュータウンの中というのは新築がほとんどない。それに対して、ある一定の年数がたつてくると新築活動が発生しますが、旧町旧村はしたたかで、ずっと継続的に新築活動が展開している。こういう持続性を持っているわけです。そのあたりとニュータウンとは一体どう連携し、展開していったら、純住宅からどうやって脱皮していくか。そういうことを考えないと、持続性とか色々なことがなかなか展開できない。

そういう面で外の状況を書かれていますかと言っているのですが、御指摘すると、ここで農家が何軒あって、先ほども言いましたように 1 農家あたりの出荷額はどれぐらいになっているのかとか、作付面積はどうなっているのかとか、農業以外の産業はこの東部地域のどこにあるのかというデータを今日見させてもらっていたのですが、住宅関連の常住人口に対するデータしかないです。

これからのまちづくりというのは、従来までの常住人口あるいは夜間人口中心の施策では、人口が減るのは当たり前ですから、あるいは高齢化というのは当たり前ですから、出口がないです。常住人口の見方だけでまちを見ていたら失敗するわけで。交流人口が一体どれぐらいあるのかとか、逆輸送みたいな、大学に逆輸送で昼間人口が一体どうなっているのかとか、そういう見方をしないと、次の展開論、出口がなかなか発見できない。

そのあたりのことを少し、そういうスタンスで臨みたいし臨んでほしいし、もともと名称が東部まちづくり戦略会議ですので、そういう視野を少し持って展開したほうがいいのではないかという話で御発言させてもらいました。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

確かに言われるとおりそういった資料が出ておりませんので、次回の会議までにそういった資料を用意いただければと思います。

【山下市長】

ありがとうございます。

大変貴重な御指摘をいただいたとっております。様々な見方があろうかと思っておりますけれども、それぞれの皆さんから色々な御指摘いただく中で、我々の考えが足らざる点については我々もしっかりと理解を深めながら、必要な資料なり調査なりがあれば、その会議ごとに補充しながら進めさせていただければと思っております。

増田委員から御指摘いただいた点も含めて、今の桃花台ニュータウンだけの議論でなくて、まさに今の東部の課題、全体の課題にいかに対応していくのか。さらにいえば、そのためにまち全体としてどう取り組むのかということまで、もしかしたら議論が必要かもしれませんので、必要な議論は、特にここはフリートークですので、大所高所から色々な御議論いただければありがたいと思っ

ております。

よろしく願いいたします。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

大塚委員。

【大塚委員】

自由に発言していいですか。

【秦野ファシリテーター】

大丈夫です。

【大塚委員】

増田委員のお話を伺っていて、色々と聞いて、意見を述べさせてもらいたいと思ったのですが、まさにおっしゃるとおりだと思いました。

桃花台の人口は現在2万2,000人ぐらいですかね。だから、そこだけで考えるというよりも、やっぱり東部地区の一部をニュータウンとして考えると、実は、周りに自然はあるし、産業も、農業も工業も、現に大学もあつたりして、すごい資源がいっぱいあります。これをセットに、1つとして考えると結構色々なアイデアが出てくると思うので、そういう考えというのはやはり重要ではないかなと思って、賛同していますという話が1つ。

もう1点は、それに伴いちょっと気になったのが、資料3に下から2つ目の緑色の東部振興構想・基本計画の策定で、(仮称)東部振興構想策定委員会を設置しその中で桃花台ニュータウン部会を含むという、桃花台ニュータウンは別で、ほかにどういう部会があるのかなというのもあつたりして、そこら辺、もう少し東部全体を一体的に考えていくというお考えのなかで、整合性はとれているのかなと若干心配になったということです。

【山下市長】

今の御指摘も踏まえて、市の事務方だけではなくて東部の桃花台にお住まいの方や周辺の方も含めて、やっぱりニュータウンとそれ以外というような二分法というのは一部あるところですが、だから、今の御指摘というのも非常に貴重な御指摘です。先ほど申し上げたように、必ずしも決まったスタイルではなくて、まさにこの場の議論の中で、一緒に考えていくともっと広がりが出て、色々な魅力的な資源も豊富だと大塚委員もおっしゃっていただきましたので、このあたりも、これから皆さんとともに協議していくということでもありますので、そういう御指摘も含めて考えさせていただきたいと思います。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

古池委員。

【古池委員】

小牧市史の現代編の 83 ページにこういうくだりがあります。「1960 年代に入っても篠岡に日本のふるさとのたたずまいがそのまま残されていたのである」とあります。それ以外にも、先ほど御紹介ありました、桃、クリ、ブドウ、柿が大変有名だということでもあります。

今日現地を見てきました。上末東山西というのは 155 号線、私は瀬戸から来たので、あっちから来ると、そこを右に曲がると農道に入るわけですね。ものの数分で樹鸞という喫茶店があって、その女の子と、僕が何者かわからずにしゃべっていて、「ここはすごく桃がよくて、桜が咲いているよりも 5 月に桃が咲いているほうがはるかにきれいだ」とか語り出すのです。「そのときにぜひ来てください」あるいは「桃が売っているので買いに来てください」としゃべってくれるのです。

何が言いたいかというと、彼女がこういうことを言うのです。2 軒ぐらい、農家さんが高齢化で残念ながら農家をやめたのですという話をされました。先ほど増田委員も、私もそれでデータで見たらどこにもない。彼女が言っている 2 軒やめられたという話はミクロの話ですけれども、マクロのデータがないので、どれぐらいかわからないです。

何が言いたいかというと、155 号から 41 号線に入ってくると、残念ながらげんりする景観が広がっている。イメージはやっぱり内陸工業都市であり、歴史としては小牧山ですけれども、私がここに市史で書いてあるところがそのまま残っていたら貴重な小牧の奥座敷的価値があって、奥座敷的価値は恐らく時代が再評価していくと、今まで近代都市でやってきた内陸型の工業都市ではない価値がそこにあって、これをどうやってうまく再生していくか、桃花台ニュータウンを融合するか、これができればすごく魅力的なニュータウンになるし、あるいは相乗効果で周りの集落も再生するでしょう。こここそ最大のポイントだと感じています。

傷んではいたのですけれども、桃もちゃんとあり柿もなっていて、また集落としては再生できそうなので、ここに書いてある高齢化の進展と生業をどううまく継いでいって、景観として残すか。そこがうまくできれば、小牧の奥座敷的価値に足り得ると思います。東部というのは、今まで都市の側から見ていると遅れているというか、逆にいうと価値が光ってきて、新しい小牧の顔ができるというあたりが議論のポイントだと思います。また、喫茶店の女の子が一生懸命語ってくれるところに可能性を感じるわけです。

【増田委員】

それに関連していいですか。

いただいた資料で興味深く読ませてもらったのが 56 ページ、57 ページ。これ読むと、中学生がタウンミーティングをされていて、ここの中で基本的には展開論を考えているときにこういう展開論が欲しいと思うのですけれども、大人がやるとつつい現状と課題とあって、問題点を発掘します。ところが、子供のものを見てもらうと、東部地区のよいところと、このデータに出てこないところがかかり出ています。観光・地産の中の話とか、あるいは歴史に興味を持てる場所が多いとか、地域のつながりが深いとか、地域の方々との距離が近いとか、あるいは緑道が整備されていて学校まで安全な道で歩けるとか、結構いいところがいっぱい出していたり、あるいはその裏の改善されたいところについても、今まさに古池委員がおっしゃったように、東部地区の桃や名古屋コーチンの特産品としてアピールしたらどうですかとかいうことを中学生のセンスでいっぱい書いてくれています。

それを拾いあげるバックデータはやっぱり大人としてつくっておかないと、せっかく子供が気づいてやってくれて、次の展開論をどうやって探していくのか。資料を読ませていただいている、このあたりが必要と感じます。

それと地域の方々のボランティア活動も、ニュータウンの中だけではなくて、やはり周辺での、里山での活動されているグループがいたり、あるいは多分、農村部の畑を借りておられる桃花台ニュータウンの方はかなりいらっしゃると思います。

そうやって考えると、民衆では交流しているのですけれども、行政界的に見ると見えない線があると感じます。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

和田委員、お願いします。

【和田委員】

増田委員がおっしゃったこと、子供というところがすごくポイントだと思っています。ニュータウンはやはり空き家が増えます。何でかといったら人口が減るからで、簡単な話ですけれども、結局住んでいた子供らが、そこに魅力がなくなって出ていくということが一番課題だと思います。これからまちづくりを考えていくときに、僕がぜひやるべきだと思っているのは、タウンミーティングというのを中学生だけでなく、小学生とか高校生など、色々な子供たちを巻き込むということが僕はすごく重要だと思っています。

なぜかといいますと、その子供たちがまちづくりにかかわるといことがすごく重要で、その未来、自分が20年30年後を見たときに、私たちがあのときに考えた計画が実って、例えば空き家がなくなり、地域が持続可能な、サステイナブルなまちになったという事実が、おそらく帰ってきたい、もしくは子育てをしたいということになるのではないかと思います。

まさに先生が言った千里ニュータウンのほうに住んでいる人間なので、確かに高齢化が進んでいるのです。桃花台もそうですけれども、大きく土地を割り過ぎているという都市計画の問題もあつたりして、結局入っていきたくいけれども入ってこれないといった課題とかももちろんあるのですが、そこで子供のときに生活した人が、やっぱり自分たちが住みやすかったとか生活しやすかったりとか、同級生がそこに残っていたりとか、そういうことで一部帰る人もいます。

だから、帰りたいまちにするためには、今から関わってもらいたいということがすごく大事かと思えます。そうすることで、やっぱり空き家になったとしても、今度は小牧市の東部エリアから出ていった子供たちが誰かを連れて帰ってくる。旦那を連れて帰ってくる、嫁を連れて帰ってくる。これが一番いいことだと思いますので、今、子供たちとまちづくりを一緒に考えていくことをやっているところはあまりないので、僕は最先端のまちにできるのではないかなと思っています。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

尾関委員、お願いします。

【尾関委員】

私も、地域の活性化ということでこういった議論に何度か参加させていただいたことがあります。最初に増田委員がおっしゃった若い人と、生業、この2つがキーワードだと私も痛感しております。

和田委員のお話で、若い人の意見を酌んで、それを生かしてというお話ですけれども、そこで欠落するのが生業の部分だと思います。やはり産業を振興させる。食いぶちがなければ戻りたくても戻れないという現実がありますので、食べられる基盤をきちんとつくってあげることが重要だと思っております。

その辺、子供の意見を尊重しつつ、一方で大人もそういう視点を組み込んで考えていく必要があると思っております。

【和田委員】

その辺が大事だと思います。ある鉄道会社の大きなニュータウンを分譲した後がまさに高齢化していて、どうやって、やっていくかというところで。

旦那が働く場所は桃花台、東部エリアになるべきかという、僕は決してそうではないと思っています。それは車で通勤すればいいし、通勤できるようなところであればいいのかと思います。それは一般的じゃないのかなと思っています。

もう1つは、パートに出るとか、要は二馬力で働ける環境、奥様が働ける環境というのはすごく必要じゃないかなと思っています。それについて言うと、今はリモートワークというのが非常に盛んになっていまして。僕らも空き家のデータベースをつくっている会社ですが、データベースをつくる、データを処理する人たちはリモートワーカーです。主婦の方にやっています。これで月額5万円とか10万円ぐらい稼いでいます。

別に東京にいらなくても、全国にリモートワーカーをつくることができますから、そういうところの産業。ましてや今の世の中、パソコン一台でどこでも仕事ができる。よくあるのが、ベンチャーが、例えば徳島でもそうですけれども、自分たちの村をつくってパソコン一台で仕事をしていく。それがノマドワーカー、デュアルライフとかいった文明のところだと思うのですけれども、そういうベースをつくるというのもおもしろいかなと思っています。要は、パソコン一台で暮らせる環境を用意してあげる。これは素質として近所の主婦の人たちが二馬力で働ける環境をつくってあげる。家で働くというよりも、集まって働かずと1人ではなかなか働きにくいので、そこに集まって働く、例えば空き家がそういうスペースになったりとかいうのは僕らでも想像していまして、そういうことができれば、産業というのもどんどん活性化していくんじゃないかなと思っています。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

【増田委員】

継続的な若年層の転出超過というのは、要するに、ある意味働く場所がないから自然の結果として出てきます。だから、とどめようと思ったら、住宅政策ではとどめられない。今言うような産業政策とか新たな業を起こすこと、この場所でアトリエ付き住宅なのかワーキングスペースみたいなものを提供するとか、そういう働く場所があるから要するに転出抑制できるのです。農村集落で、

なぜ新築行為が発生しているかという点、家業があるからです。ニュータウンの悲しいところは、基本的に全員が家業を持っていませんので、就職の選択をした段階で、そこに住めるか住めないかが決定されてしまうのです。

家を取得した連中は就職していますので、勤められるという条件で桃花台ニュータウンを選択している。子供は、要するに桃花台に住むということを前提に職業を選択しないですから、職業の選択をした結果出ていかざるを得ない。この構造をどう変えるかということを考えないと、継続的な若年層の転出超過というのはいけません。

だから、今言う奥さんが旦那を連れて帰ってくるとか、奥さんは扶養家族の範囲内の100万以下で在宅勤務ができるとか、あるいは何人かの主婦層が集まって地域コミュニティの面倒を見るようなスモールビジネスがこの中で展開しやすい環境があるとかいうことを考えていくのは非常に重要なことだと思います。

【秦野ファシリテーター】

坪井委員、お願いします。

【坪井委員】

最初にこの資料を見せていただいて、小学校の生徒数が激減しており、生徒数は小学校のキャパシティの半分ぐらいになったということです。それは、増田委員がおっしゃったことが原因だと思うのですが、小牧の東部地区というのはやっぱり工業も面積の割に集積度が少ない、点在している。人がいないということで、商業施設、個人商店も含めて少ない。ですから、中心地に比べて魅力がない。交通の足が当初あったものがなくなっている。

そのようなことで少し人気なくなっているということですが、実際には色々な企業が、小牧は利便性が悪いと思ったら転出したり、まとまった土地がないとか土地の価格が高いということで小牧への進出をあきらめたり、また逆に、小牧にある企業でさえも、もう少し拡張したいといったときに叶わなくて転出していくというようなことがあります。ですから、住宅等の問題もあるのですが、産業を何とか。企業誘致とかそんなようなことでやっていかないといけないと思います。

具体的なお話をさせていただくのですが、私が勤めていた会社が東北のほうに工場をつくりました。それが宮城県の大衡村というところで、その工業団地にはトヨタ自動車さんも入っていらっしゃるのですが、人口がやっぱり少ない。みんな仙台へ行ってしまふ。大衡村では、大衡村に家を建ててくれたら、土地も補助金を出します。建物も補助金を出します。子供ができたら祝い金、非常に至れり尽くせりという自治体がございます。人口だけの問題じゃないですけど、歯どめをかけるにはそんなような工夫も必要なんだと感じています。

心配なのは、高蔵寺ニュータウンというのが春日井市にございまして、桃花台よりちょっと前ですね。放っておくと、高蔵寺と同じような状況になってしまう可能性がありますので、働く場所を何とかつくることから考えていただいたほうがよいのではないかなと思いました。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございました。

【小柳委員】

私どもが入ったころは子供たちがあふれていました。ですから、公園に草が生えることはありませんでした。今は草が生い茂り、手当てをしなければ、とてもじゃないが子供たちを遊ばせることができないという状態です。

なぜそうなったかという、子どもたちが高校、大学へ上がるときに、地域に学校がないものですからどうしても外へ出ないといけない。あるいは東京一極集中で向こうの大学へ入ってしまう人もたくさんおります。その子たちが卒業して帰ってくるかという、そのまま生活基盤、世帯を持ってしまおうというのがずっと続いています。

したがって、1,000人以上いた小学校が、300人を切ってしまったという小学校もありますけれども、そういうことが継続的に続いているということは、今のような状態で、足元に魅力的なものがあり、生活基盤ができれば、そういう人たちは戻ってくるという思いがしていたのですけれども、それは私どもの力では何ともならないということで、その後ずっと変わりありません。そのことは今言われたようなことで、努力をすればもう少し回復できるかなと。

ちょっと話が違うのですけれども、先ほど桃花台のことだけで、周辺はどうかと増田委員のお話がありましたけれども、私ども、篠岡区長会という大字部落の区が10区あります。私ども桃花台が23区入って、33区が1つの篠岡区長会というものを組織しています。これは常に意思疎通ができるようにしていますし、色々な問題点も。桃花台の中と外とはちょっと違いますけれども、そういうことで協力できたり、色々話し合いができるように努力はさせてもらっています。

僕が桃花台に来てこのような立場にさせていただいたのは入居3年目からです。私どもが住ませていただいたこの土地は、周辺の人たちが代々守り続けてきたものを分けてくれたんだ。したがって、そのことに感謝できれば、必然的に子育てができる、子供の教育ができるということを内部でも言いましたし、周辺の皆さんにもそういう考え方をお示ししました。

桃花台センターというのがあって、30周年の記念誌が出て、市長も私も理事長も挨拶をさせていただいたのですけれども、そのときも、過去を思い浮かべて、現在もそういう気持ちですよということを挨拶文に書かせていただきました。

もう1つは、先ほど名古屋コーチンのお話が出ました。名古屋コーチンは、発祥の地が小牧です。ましてや、桃花台の近くの池之内地域です。そこに碑が建っています。海部壮兵の兄弟がこのような努力をしました。しかしながら残念なことに、碑の周りに草が生い茂っています。訪れる人がいないだから、三大地鶏の一つとしての名古屋コーチン発祥の地としての役割をどうやって魅力づけしていくかということが大事だということをほかの会議でも申し上げているのですけれども、そういうことで掘り起こしていく。名古屋コーチン音頭踊りもつくったのだから、その場でイベントを組むぐらいの迫力をもってやらないと、地域はなかなか活力が出てこないなど。そういう中で桃花台の住民と地域の住民との結びつきというのを深めていく。

さらに言えば、桃花台まつりというのは今年で33回目ですが、夕方から夜に行うのですが、一人一人数えたことないですけれども、露天商の人に聞くと、2日間で大体4万人はいるという話です。地域の子供たち、周辺の子供たちだけではなくて、さらに生まれ育った子供さんの子供さん、お孫さんがこれを楽しみにして来るのですね。

そのときに、本当に世の中少子高齢化なのかというようなことを感じるくらいに、この2日間は人が集まってくれるから、もっと魅力づくりをしていかないといけないのですが、何か定着させる基本的なものがちょっと欠けておるかなと、お話を聞いて思いました。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

【和田委員】

小柳委員に御質問ですけれども、とはいえ戻ってきている人はいますか。要は、一回大学で外へ出て、どういう理由で帰ってこられるのか、わかれば教えてください。

【小柳委員】

どちらかというと、親の都合で帰らざるを得ないという人が多いです。魅力があって来てくれる人もおるだろうけれども、帰ってくる人は少ない。

【和田委員】

要は、そういう方は帰ってきてても仕事は出られるということですよね。親のせいで帰ってこなくてはならない。介護の問題とか、あとは例えば自営業であったとかいった理由で帰ってくるというケースが、親の都合で帰ってくるというケースが多い。

【小柳委員】

そうですね。

【和田委員】

なるほど。

あと、僕らが要は地方で話をしたりすると、1つの問題が、ニュータウンの人たちとその周りの人たちの仲が悪いというのがよくあったりします。このあたりはさっき小柳委員がおっしゃっていたなかで連携とれているよねというところで、もとの考え方が違う方が結構多いのではないかと思いましたが、その辺は例えば東部でまちづくりしようとなれば、前に真っ直ぐ向きそうな感じでしょうか。

【小柳委員】

確かに難しい面もあります。昔からお住まいになっている方とある意味途中で来た住民とは違いますので。その辺は、僕が先ほどちょっと言いましたように、僕たちのこの土地を譲ってくれた人は周りの人たちだと、いつもその気持ちを持たないかと僕は町内でも言っています。

僕が住みついたときに、僕のところは子供がもう大きかったのですけれども、ほかの子供たちがどうやって交流していこうかということで、僕の家の前で盆踊りを教えたのです。盆踊り大会をやると、それがいまだに、40なり50になった人が覚えているのです。小柳さんに教えてもらった盆踊りだとか、いまだに僕の顔を覚えていてくれるのです。それはよそへ行っても。僕は非常にうれしく思うのです。

そういう人たちが戻ってきてくれるといいけれども、なかなかうまくいかないのが現状の悩みです。ですから、今日お話を聞きながら、行政的なもので御努力いただくのと地元で何を努力するか。地元も色々、定年を終えて町内活動をやってくくださる方もいます。そういう中で横のつながりができてくるのです。

【増田委員】

地域で色々これから展開されるというのは非常に重要です。

泉北ニュータウンなんかでもどういう仕掛けをしているかというところ、ここにもございましたように、緑道のおかげで安全に歩けるとか、あるいは非常に公園が多いまち。ただし、それを本当に使いこなせているかと感じます。私なんかはずっと緑行政をお手伝いしてきましたけれども、公園に行くと「べからず集」です。犬の散歩をさせるな、ここでボール遊びするなということ。そうではなくて、これからの時代、財政も非常に厳しい中でどうやって使いこなす仕組みをつくるかが重要であります。

泉北ニュータウンの泉ヶ丘の再生の中で、一番駅に近い大蓮公園という十数ヘクタールある府立公園の再生事業をお手伝いしているのですが、それは基本的にそこに色々な市民がプレイヤーとして入ってきて、色々な自由な活動もできる受け皿として、プラットフォームとしてどう公園を再生するかという取組を進めてまいります。

多分、公園があります、緑道がありますといっても、ほとんどが使いこなせていない。そこで例えばガーデンパーティーをして新しい屋外生活を楽しむようなことができたりし

、ひょっとしたら蚤の市ぐらいはやられるかもしれないですけども、新たなライフスタイルに合った公園の使いこなし方みたいなことができるグループが発生してくる受け皿がつかれるかどうか。若い人たちが住んで楽しい関わり方ができるような仕組みを、仕掛けをどうやってつくっていくか。そんなことも非常に重要です。

今までみたいに、まちづくり協議会もそうですけれども、いつも色々なところで活動しながら言うのは、「ゲストからホストへ」という感覚を持ってくださいということです。利用者としての要求よりも、自分達がほかの市民を招いてこんな活動をしたいからこんなふうに行政は変わってくれませんかというホスト側の発想で、活動をどう展開してくれるか。そうすると、新たな居住意欲につながっていく。そういうことも非常に重要になってくる。

もう1つは、先ほどの課題の見方ですけども、課題は裏返したら利点です。

例えば、減少した児童数・生徒数、校区の見直し、学校統廃合。学校を統廃合した後の用地あるいは学校の校舎とか体育館とかいう施設は、ある意味将来への可能性です。これは課題ではなくて、反対に、非常に土地利用が固定化しているニュータウンの中で遊休施設が出てくるというのは次への展開の非常に大きな可能性です。それは課題ではなくて可能性であって、問題点ではないです。

空き家も一緒に、空き家というのは基本的に問題点であると裏返せば、新しい居住者を呼び込むためのストックとしての新たな価値です。だから、空き家が一軒もないニュータウンよりも空き家が結構あるほうが、知恵を使えば可能性があるという見方をすれば、悲観するばかり、ここに出ている課題は、ひょっとしたら裏返したら将来へ展開する、あまりにも土地利用が、決まっていたニュータウンで何もできなかったことが、ひょっとしたら何かできる可能性のある用地が、幸い人口減少で発生してきたと見たら、かなり知恵を働かすことができる。

そんな視点でこの課題とか現況を見ていけば、もう少しみんな顔を上げて次の展開論の議論ができるのではないかと思います。

【古池委員】

課題と価値分析といいますか、転換で可能性という話はまさにそう思います。私がお手伝いしてきた富山県南砺市というところがあります。私はその応援市民になっています。

どこかといいますと、世界遺産の合掌造りがある集落です。一晩で1m近く雪が降るような過疎地です。その世界遺産の集落の隣に普通の集落もありますが、そこに3軒ぐらい新しいファミリーが都会からやってこられて、その方に話を聞いていたんです。そうしたら、やっぱり都会にはない価値を求めて来ました。1つは環境です。もう1つは、そこでは「結」と呼んでいますが、要するに人のつながりの強さとか獅子舞というものもあって、そういう伝統文化の奥深さとか、探し求めていたら、そこにたどり着きましたみたいな話でした。いわゆる利便性の物差しからいえば大変不便なところですが、違う価値が光っている。そこを求めて来る人は必ず、少なからずいます。

そうやって考えると、小牧は全体的には大変利便性が高い。その中の東部のあたりの集落の潜在的な価値というのはもうちょっと違うところにあるかと思っています。これはもっとしっかり集落調査をやらないとわからないですが、さっと見たところ、結構お寺とか寺社仏閣とかにまつわるようなところがあります。もちろん自然もあります。そういうところから推察すると、まだまだつながりみたいなものが都会にしてはありそうなおいが直感的にするのです。

そういう潜在的な価値をいかにニュータウンに取り込んでいって融合させた価値、いわゆるシナジーを創り出すか。具体的なところはこれからの議論でしょうけれども、そこら辺は、住んでもいないし、ましてやちらっと通っただけではわからないですけれども、地元の方とかでその集落のまさに個性みたいなところとか歴史的なところとか、何かヒントがあれば聞きたいと思います。

不思議と目についたのがお寺さんばかりでした。大概そういう集落は結構信仰的なつながりとかあって、相対的には都市部よりは人のつながりとか、あるいはお世話している人が多かったです。現状はどうですか。

【秦野ファシリテーター】

小柳さん、集落の現状はどうですか。

【小柳委員】

桃花台以外の集落ですね。

僕もよく接するんですけども、限られた集落だと思いますが、後継者がいなくて米づくりをやめようかなとこの間言っていました。後継者不足でだんだん悩む地域になってくるのかなという思いがありますが、先ほど委員がおっしゃったように、桃花台は随分畑をお借りしています。お借りしている人も、無償で借りたり、あるいは昨日も話していましたが、耕運機を桃花台周辺の人が貸してくれた。借りた人は、次の桃花台の住民に、私のところも使えなくなったからといって紹介した。紹介したら、その方が引き継いでまたそこをお借りするというので、その方は高齢者ですが元気ですので、その次をまた見つけてそこを借りるという交流が随分あります。

ですから、集落の人たちとの関係は、桃花台としてはそれだけで関係を築き上げるわけにはいきません。日ごろの交流を通じて人間関係を深く結んでいかないといけない。

しかし、僕の感じとしては、そういう話までしてくれるぐらいですから、常に交流をさせていたでいる結果あり、桃花台ニュータウンの人たちは周辺の人たちのことを大事にしないといけないかと思っています。そういう思いで僕が今代表をやっていますが、区長さん方にもそういうことを言っています。

桃花台の中では、居住者を掘り起こせば人材がかなりあります。今日も傍聴に来ていただいておりますが、桃花台を考える会という組織をつくってやっています。また、住宅よろず相談ということも呼びかけて定期的にセンターで相談会を開催しています。たくさんの方が相談に来るかということでもないとは思いますが、しかし、そういうことをやろうとする人たちがいるということは、私は先行きが良いと感じておりますし、今後さらにそういう人たちが増えていくような気がします。

【山下市長】

それぞれから色々と貴重な御意見をいただきました。本当に全ての方の御意見、大変参考になるものばかりでありました。

ここまで話が進んできたので、若干私から、いくつか補足させていただきます。小牧の実情をあまり御存じでなくて、一般論という話も中にはございましたので、少し補足がてら何点かお話しさせていただきます。

まず、これは全体であります。産業の面、近くで働けるところがないという話がありました。昼間人口が市全域では現在 119%で、尾張北部での市としては、唯一いわゆるベッドタウンでない、外から働きにくるまちだということが現実のデータであります。

働きに行くところは、和田委員が、お父さんは車で行くのもよいという話がありましたが、桃花台ニュータウンの一つの弱点として、やはり公共交通が脆弱していることがあります。大都市近郊のニュータウンは鉄道駅があるところが多いと思いますが、残念ながら、小牧の桃花台ニュータウンは電車が通っていません。平成 18 年にピーチライナーという、全国で唯一の新交通システムが廃止になったニュータウンでありまして、小牧駅、中心市街地の名鉄小牧駅と結んでいたものが廃線となり、かれこれ 10 年ちょっとたつという状況であります。公共交通はバス以外通っておりません。これは一つの弱点だと思っています。

桃花台ニュータウンの人口減少について、先ほどから話があるように純住宅だから、そこに入ったお父さんお母さんたちはいいけれども、子供たちは就職あるいは大学入学とともに都会へ出てしまう。このようなことが現実としては起こっている。これはまさにそのとおりだと思っています。

先ほどの和田委員の話の中にもありました。戻ってくるようにするためには、子供のころから地域に愛着を持たせるということについては非常にいい考え方だと思っています。今、小牧は「こども・夢チャレンジ No.1 都市」という都市宣言をしております。子供を軸にしてまちづくりをしていこう。子供を軸に、お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、世代を超えたつながりをつくることを積極的にやろうとしています。みんなで子育てすることによってつながりをつくることを本市の 1 つの柱にしています。子供のころからの愛着形成というのは非常に重要だということを再認識させていただきました。

現実問題として、先ほどここに戻ってくるかといったときに、転出先で生活基盤を整えているということがあるので、I ターン、U ターンの対策もやりながら、もっと新規入居を増やす必要があると考えています。特にニュータウンは、戻ってくるということだけでは追いつかない。今後の人口減少というのは子供が出ていった後に残った両親が高齢化して、いずれ、お子さんが戻ってこないとする空家になっていく状況をどう新規入居につなげていくのか、あるいは空家を活用して何らかの取り組みをしながら、もう少しゆったりした中で、先ほど和田委員もおっしゃったよう

に、また新しい価値の中で新しい若い人たちに集まってもらうような再生ができるのか。そんな、戻ってきてもらえるまちづくりと新たに住みたいと思うような部分の、両面で考えていく必要があるということをお聞きしながら感じさせていただきました。

都市基盤が全て整っている、まさに小牧の中でも優良な住宅地です。自転車道とか、要は車と接触せずに学校まで行けるなんていうことは、小牧の中ではニュータウンぐらいですから、そういう意味では都市基盤が非常に整った住みやすいまちであることは間違いない。そのメリットと、周りに田園が残っている価値との融合という古池委員の話も、とても参考になりました。今の現状を踏まえながら、委員の皆さんから伺ったことをヒントにしながら、これからのことを考えていけると非常にいいなと思っております。

もう1点だけ、固定化している土地利用形態なので遊びがないという話もございました。5年くらい前、最後に中心部で残った区画を売り出して、あれはすぐ完売しています。これは私の感覚ですけれども、一定の範囲で新規の住宅開発が小牧市内で行われると、桃花台ニュータウンだけでなく、篠岡の近くの味岡などでも、かなり早くに完売する状況は小牧市にはまだございます。

ただ、今の状況というのは、高齢化していく中で、これはニュータウンだけではないですが、空き家が今後出てくるのではないかと、新しいまち並みが広がっている新しい開発団地などの区画は売れますが、そうではない、開発から時間が経過した団地などでは、当初からの入居者は高齢化が進んでおり、若い人達は入居しにくいのではないかと、私は感じており、そこがポイントではないかと思っております。

皆さんの御意見を聞き感じたことや現状についての補足をお話しさせていただきました。引き続き、また色々と御意見をお聞かせいただきたいと思います。

【秦野ファシリテーター】

和田委員どうぞ。

【和田委員】

市長、ありがとうございます。

実は僕も、東京で空き家問題の専門会社を営んでいますが、実は10年前、不動産分譲、いわゆる住宅を建てる方の会社を先に起業しました。その顧客で考えると、確かにまとまった区画は早く売れやすいですが、一戸一戸というのはなかなか難しく、なかなか売れないというのは現実であります。

そういう人たちはなぜ戻ってくるかというと、親が近くに住んでいるという理由が多いです。あとは、小学校がいい学校であるとか中学校がいい学校であるということを周りから聞きつけて帰ってくる、もしくは子育てしやすい環境というのを友達から聞いたとかいうことでそこへ帰ってくるということがあるので、その辺の整備は大事だと思います。要は、コミュニティー、おそらく小学校でママ友達の間でコミュニティーというのが必ずできてきます。そこにうまく入っていけるかどうかというのが、一戸一戸の家であったとしても売れる可能性が高くなる要因だと思います。

大阪の会社での経験からも、決してそういう案件が出てきたからといって売れにくいということではないと思います。ただ、いわゆる桃花台もその地域とかと一緒に、大きな区画になってきますので、この辺も価格帯とかがどうかという問題もあります。

これは無理だと思いますが、都市計画の問題から、今さら半分にしろとかはなかなか難しいと思

いますが、要は求めやすい価格帯になっているかどうかというのも、不動産的観点からするとどうかというところは気になります。

さっきの新規入居を増やすというところで、おそらく課題になってくるのが、外国人をどうするかというところだと思います。今、桃花台も多分増えていると思います。これは、いわゆる受ける側が、先ほどの増田委員ではないですが、受け入れ側の対応によって全然変わってくるなというのが1つ。

また、廃校とか統廃合について、廃校になったときの体育館をどう使うかというのは、例えばボーンランドというスウェーデンの子供のおもちゃをつくる会社が KID-O-KID という施設をやっています。ここは爆発的に人が来るわけですが、例えば体育館を KID-O-KID にしてそこに人が集まる。人が集まることによって、周りの地域の活性化につながっていくという可能性はあると思います。廃校を民間の施設としてうまく利用して、ディズニーランドみたいな施設が来たら一番いいんでしょうが、KID-O-KID もすごく集客力があるので、そういった施設を使うというのはありかだと思います。

あとは、先ほどもちらっと言いましたが、シェアハウスの考え方とか民泊という考え方です。それも規制があって、都市計画の問題とか、大阪では特区になっています。要は、ノマドというか、定住先を置かない若い人たちが増えてくると思います。そういう人たちが入ってこられる環境とか、入ってくる施策を、いかに懐を広くして受け入れるかというのが地域の問題であるので、懐を広げられるかは結構課題かなと思います。

もう1つ、高齢化したときの一番の課題は、空き家になる原因は、俺はぴんぴん元気だというお一人でお住まいの方がいきなり亡くなることです。それも相続でもめるといのが一番大変なパターンです。売却したら1,000万、2,000万、3,000万という金額になるわけですから、兄弟でもめるわけないだろうと思ってたのがもめてしまう。それで空き家のままの状況になってしまう。

僕はそこで何が言いたいかというのは、とにかく生きている間にちゃんとしておきなさいということです。この家はこうしますということをちゃんと生きている間に家族と話をしていくというのが非常に大事なことであり、それによって流通というのは促進されていくんじゃないかなと思います。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

【増田委員】

市長さんの話も含めて何点か発言させていただきます。

1つは公共交通が脆弱の点。これはどこも一緒です。これからの公共交通というのは、今までの公共交通とは全く違う発想で、個別公共交通をどう達成できるかということを考えていけない。これは一つの例としては、ボランティアタクシー的なものとかデマンドタクシー的な話とか、今までの交通事業者がやるような交通ではなくて、基本的には個別交通を公共的にどう展開できるかという話を考えなければいけないという話と、色々な福祉バスが回るんですけども、福祉バスがあまりにも公的過ぎる。医者に行ったら、必ず買い物へ行って高齢者は帰るのですが、巡回バスで無料になると商業施設にとまらないとかいう話になる。だから、もっと生活の実態に合った形で回れるように、あるいは、それを例えば無料ではなく100円という有料化でそこをクリアしてもいいし、色々な形の公共性を担保しながら本当の意味の生活をサポートするような巡回バスのあ

り方というのは非常に重要な視点です。

あるいは、同じ公共施設でも持っているか持っていないかわかりませんが、例えば保育園の送迎バスとか幼稚園の送迎バスは、ある時間帯以外は空いています。その使い回しができないかとか、色々な意味で違った公共交通の考え方をとらないといけない時代に来ている。特に個別交通にどう対応するか。

もう1つが、新規入居に関して、空き家の流通に関して、泉北ニュータウンが、大阪市立大学に生活科学という住居系の学部があることから、その先生方に戸建て住宅が空き家になって若い世代のライフサイクルに合わない、大学の先生と連携しながらリニューアルをして、新たな需要に対応していく取り組みを行っています。

私がいつも言うのは、新しい分譲住宅の区画に住んだら真っさらでいいですが、熟成していません。それに対して、従来の40年の歴史のあるニュータウンというのは熟成しているので、工事現場に住むような感覚は一切ないわけです。それをクリアしようと思ったら住宅の問題で、集合住宅も例えば無印と一体化して改造しているという施策もたくさん全国展開して、いかに次の世代の人のライフスタイルに合った住宅改造をするか。それが2つ目の話です。

もう1つは、やはり地域とのかかわりで、地域とニュータウンと仲いいですかという話はよく出て、私はよく言うのですが、大阪のけんか祭りでは有名な岸和田のだんじりでは非常に密なコミュニティが成立して、新住民がなかなか入りにくいと言いますが、そんなことは一切ありません。要するに新住民が時間と金さえかけたら旧住民のお祭りにいくらでも入れるのです。寄り合いには行かない、だんじりの練習には行かない、花代集めにいったら普通の旧村だったら2万円払うところを2,000円も払わない。それでは交流できないでしょう。やっぱりちゃんと鐘を打つ練習から時間を割いて入って、花代を集めにきたら2万円払ったら、いつでもお祭りに参加できるのです。既成概念でものすごく敷居が高いように見えますが、全くそんなことはなくて、きちんとそれなりの対応をしたらすぐにでも仲よくなれます。

もう1つ、農村部とのかかわりでいうと、ここは少し買い物難民の話が出ていますが、今、同じような規模のニュータウンで、富田林にある金剛ニュータウンを少しお手伝いしています。そこはキーテナントが抜けた後、定期的にトラック市をやってもらっています。軽トラ市を。これは農村部で色々な多品種の農作物を収集してきて、元商店街の前の広場で軽トラ市をやってもらう。それで交流ができると、今度は反対に買っている人たちが農村を訪ねる機会にもつなげていくみたいな形での交流をしている。

もう1つは、公園とか緑道をいかに使いこなすか。自分たちが自由に使える資産というところへどう意識転換できるか、このあたりが大きなキーになるのではないかなと思います。

【秦野ファシリテーター】

時間はあまりないですけども、ほかに御意見。

尾関委員。

【尾関委員】

今日は産業展開のお話があまりなかったので、そこから離れて私の思い出も含めてお話をします。

先ほどから住民の主体性やつながり、こういったことを重視することが必要であるというお話が

出ています。現状、桃花台を中心に高齢化が進んでいる、あるいはその周辺地域の自然とか教育機関が存在するという条件を踏まえまして、以前から私自身かなり思い入れがあったんですけども、アメリカの CCRC、Continuing Care Retirement Community なども参考になるのではないかと考えます。

その日本版をつくろうということで、数年前から色々な自治体が検討していますが、小牧でそういったコンセプトで何か施設をつくるとかいったことによって活性化が期待できる。日本での成功事例として「シェア金沢」というものが石川県にあります。そこでは、社会福祉法人が高齢者介護施設をベースに展開していますが、学生やお子さんが集ったり、障がい者の就労施設もあります。そういったコミュニティーを形成して、産業も起こっているという事例もございますので、参考にして考えてはどうかと思います。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

【大塚委員】

先ほど市長が2つの方法で考えないといけない、愛着を持って戻ってくるのを受け入れる、もう1つは新規入居について考える必要があるということでした。

昨日、学生のゼミの発表を聞いていて、Uターン志向と地元愛みたいなものでしたが、ゼミで発表していた学生が言うには、若者はみんな地元愛を持っている。帰りたいと思っているが、それが実現できないのはやはり働く場所だということでした。働く場所として、最初に和田委員がおっしゃったように、企業誘致してそこで働く場所を確保するという、これは20世紀型でやってきたことですが、それはあまり現実的でなくて、持続可能ということからするとどうかという気がします。やはりもう少し起業を支援する、業を起こす施策を充実していく必要があると感じます。

学生の卒業論文ネタばかりで恐縮ですが、売木村の移住者の調査をしていくと、移住者が結構たくさん入ってきて、その人たちはみんな何をするかというと、売木村の色々な資源を使って新しいビジネスを起こす。それで食いぶちを稼いで住みつく。そういうことができる材料は結構小牧全体にもあるし、特に東部には色々な資源もあります。その辺をうまく活用して、業を起こす支援を行政としてやっていければいいと思います。

それは戻ってくる人も、新たに入ってくる人も呼び起こす。公共交通が不便だと市長がおっしゃられましたが、もっと不便なところは幾らでもあります。

もう1つ、私は住みかえの調査研究をしまして、名古屋圏の郊外地域でどういう理由で住みかえているかというものです。既成市街地では市内の住みかえが多いわけですが、計画的につくられたニュータウン的なところに入ってくる人は割と遠くから、名古屋圏の外部から入ってきます。仕事の関係で名古屋へ来てどこに住むかというときに、住宅を探すときには、やはりニュータウンという形で既成市街地にはいきなり入ってこないです。名古屋圏の住宅はどこがあるの、高蔵寺ニュータウンというところで、その中でどこにしようかということで入居者は探されます。

さっきおっしゃられていましたけれども、高蔵寺ニュータウンはイメージ悪い。これを言うと怒られますが、単なるURの賃貸住宅の空き室が増えているだけで、何も衰退していないというのが居住者の認識です。ニュータウンというだけでイメージが悪いと思われてしまっているところがち

よっとよくない。

そういうことで、イメージ戦略というのが重要で、例えば「桃花台の杜」か何か、さきほど増田委員おっしゃられたように新しいライフスタイルを提案するような、これから 21 世紀の若者が自己実現できる場所がそこに用意されているところですよみたいなことで売り出していくとたくさんの方が入ってきて、住む場所がないからどうしようという悩みがそのうち出てくるのではないかと思います。

そういう長期のビジョンを描きながら、実は小柳委員なんかは 5 年後を心配されている。5 年間今の状態がもつのかというのは現実的な問題としてあるので、長期をにらみながら短期でやっていくことも一緒に考えていかないといけないと思っております。

【秦野ファシリテーター】

坪井委員、お願いします。

【坪井委員】

商工会議所もちよっと絡んでいますが、東部地区に四季の森という公園がございます。その近くにハイウェイオアシスとスマートインターチェンジをつくる計画があります。そこからスマートインターをつくって出るようにしましょう。それが実現すれば、交通の利便性、公共交通機関ではないですけども、利便性が非常によくくなる。そのハイウェイオアシスができれば、特産品等を販売できるチャンスもできます。

ですから、1つのハイウェイオアシスができると、東部地区の活性化につながるのではないかといいこと期待する計画がございまして、2～3年後の実現を目指していますので、御紹介だけさせていただきます。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

ほぼ時間がないですが、和田委員どうぞ。

【和田委員】

若者、大塚委員がおっしゃったように、若者を呼べるようなまちにしたいということ。この前も役所へ行ったときに、こまき山の絵本をもらってすごく感動しました。僕もベンチャーとして資金調達しながらチャレンジしている身なので、こういう文化を醸成させるような小牧市になってほしいと思います。こまき山と一緒にチャレンジするぞみたいなイメージでまちづくりが出来たらいいと思います。

ちょっと調べさせてもらおうと、小牧市には三菱重工や空港があります。今後ドローンや宇宙系のベンチャーがこれから絶対出てくるはずですよ。衛星を使った何かをすとか、こういったベンチャーが、例えば小牧空港を使えるとか。そういうスペースがあって、僕たちはこれを応援するんだ、行政として一緒に応援するみたいなことを掲げてもらおうと、それに懸けた若者が、日本でもそうですが、世界中にいるわけです。視野をもっと世界に広げると、優秀な若い人たちが小牧市に入ってくる可能性があるのではないかと思います。

農業の部分もそうだと思います。農業ベンチャーというのも、やっぱり自動運転のトラクターと

かの研究をしているところは大きな会社だけではなくて、やっぱりベンチャーもすごく開発している。例えば小牧市でのエコシステムみたいなものが大手さんとベンチャーと一緒に開発したりとか、住まいもここで用意できるとか、さっきの公団の話とかでも、自分たちで DIY でいじれるとか、自分たちで何でもできるんだという自由さでチャレンジできるんだみたいな後押しをしていただくと非常にわかりやすいですし、集まりやすいのではないかなとは思いました。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

時間も参っておりますので、最後に山下市長から一言だけ。

【山下市長】

長時間御議論いただきましてありがとうございました。

それぞれ色々な所見をいただきまして、まだまだそれぞれの方から色々な、こういった視点、こういった話も提供したいという話もまだまだあるのではないかとということも感じました。今日のところは一旦終わらせていただきたいと思います。

情報提供として2点ぐらい最後にお話ししますけれども、小牧は東部のみならず全市的に人口減少、高齢化対策を強化しようということで、住み続けたいまちをつくっていきこうということに力を入れて取り組んでいます。実は、この東部まちづくり戦略会議ともう1つ、中心市街地の戦略会議も今回立ち上げて、同時並行で進めようとしております。中心市街地のほうは小牧山から小牧駅の間あたりを指すわけですが、駅前の再開発を途中でそのままほかっておいたみたいな空白期間がありまして、一等地に新しい図書館の建設を今年の7月に着工いたしましたし、再開発ビルのテナントが入らなくなってきていましたので、これを再利用して、(仮称)こども未来館の整備ということで、この近隣では一番大きな児童館を整備することとしています。これも7月に着工いたしました。

中心市街地、市全体のまちづくりとあわせて、東部のさらに魅力向上と定住促進を含めた将来像を描いていこうと進めていこうと考えております。先ほど廃校の利用やベンチャーの話もありましたし。私がこの会議が始まる前までの東部振興のイメージと、会議が終わって皆さんのお話を伺った後で、これからの構想づくりに向けて大分私自身のイメージが変わりました。皆さんと一緒に色々とまた議論を深めていけば、何とかしなきゃいけないというイメージから明るい未来をつくり上げていくイメージの構想や計画にまとめていけるんじゃないかなと、そんな希望が見えたような気がいたします。

また皆さん方に色々小牧の実情をごらんいただきながら、また次の機会に有意義な会にさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

今日は大変ありがとうございました。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございました。

次に、議題(4)、その他、事務局よりお願いいたします。

【事務局】

次回の会議の予定でございますが、年明けの1月、2月ごろに日程調整させていただきまして御連絡させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日色々資料不足ということがありましたので、資料を整えて、次回は配付させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

【秦野ファシリテーター】

以上で、本日予定しておりました次第につきましては全て終了いたしました。

事務局に進行をお返ししたいと思います。

円滑な会議進行に御協力いただきまして、皆様ありがとうございました。

【事務局】

長時間にわたり御議論いただきましてまことにありがとうございました。

なお、本日の会議の会議録につきましては、作成させていただき次第、委員の皆様へ御送付いたしまして内容の御確認をお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

これをもちまして第1回東部まちづくり戦略会議を閉会させていただきます。まことにありがとうございました。お疲れさまでした。

【了】